

お年寄りがいる家族では・・・



高齢者・家族



市街地から離れた実家に暮らす高齢の父親は、遠隔診療により、かつての週に1回から今では月に1回へと通院負担が軽減され、データ・AIを活用したかかりつけ医による診療を無理なく受けられる。
要介護状態の母親は、データ・AIを活用した最適なケアプランにより、要介護度が改善し、自宅で過ごす時間が増え、団らんを楽しんでいる。



医師が頑張る現場では・・・

昼夜にまたがる
途切れない仕事

医療現場

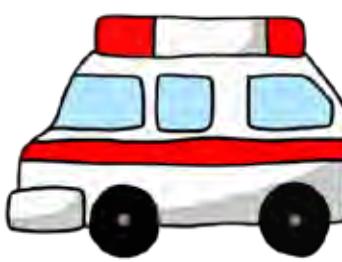
医師は、これまでバラバラだった患者の健診・治療・介護記録を、本人同意の下、確認。初診時や救急時に個人に最適な治療がいつでもどこでも可能に。

高齢者・家族

生活の足
の不足

移動革命
の実現

鉄道や路線バスが廃線となり、仲間との団暮の会や買い物・通院に車を使用していた高齢者が、心配する家族から運転を控えるよう勧められていた。県道を走る自動走行バスと道の駅からの移動サービスが導入され、住み慣れた土地で、家族に心配をかけずに暮らし、外出も続けられている。



忙しかった現場では・・・



物流現場

過密な
スケジュール
による負担



eコマースの進展に伴い、
物品取引が飛躍的に増大して、
ドライバー不足と長時間労働に直面。
しかし、一人のドライバーが行うトラックの隊列走行によって大量の貨物が輸送可能、
ドローンを活用した個別配送が一般化すること
によって、大きな負担なく物流事業が継続でき、
消費者ニーズに沿った新たな配送サービスが
日々生み出されている。



建設現場

休日までの
労働負担



これまで習得するのに何年も
かかったノウハウも、ICT建機により短期間で
身に付けられるようになる。週末返上で
とりかかっていた工事でも、熟練工の
長時間労働にしわ寄せせずに、土日の休日
をきちんと確保することが可能に。



介護現場

昼夜にまたがる
途切れない仕事



ロボット・センサー等の活用により、
夜間の見守りなど職員の厳しい労働環境は
大幅に改善され、その分、専門性を活かして
個々の利用者に最適なケアの提供が可能に。

新たなチャレンジをする人たちは・・・



スキルアップ
の手段・動機

IT専門人材

ITベンダーで販売管理のシステムを
古い言語（COBOL等）で開発していたが、
30歳代半ばで、e-learningで新しい
プログラミング言語（Python等）を習得。
転職先のITユーザー企業で、顧客の好みに
カスタマイズしたサービスを提供できる新たな
システムの開発を先導し、海外のIT人材と
比べても遜色のない給料で
活躍している。



若手

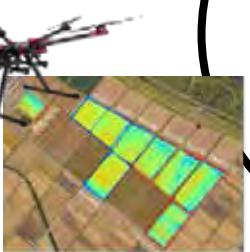
小学校でのプログラミングの授業を
きっかけに、10年後の社会で自動走行車や
ロボットが日常生活に溶け込んでいる姿を
自分で設計したいと思い、大学の工学部に進学。
情報工学、機械工学のみならず、経営学など
他分野も専攻した後、ベンチャー企業を創業。
大手企業との共同研究に邁進している。

地域で頑張る人々は・・・

データ利活用

農業現場

経験や勘のみに頼らず、熟練農家の知識、生育状況や気象など様々なデータを駆使し、新規参入者でもおいしく安全な作物を収穫でき、生産性向上や経営改善によって稼げる農業が広がっている。



中小製造業

中小企業の現場に直接出向いてくれる専門家に相談し、自社に合った低コストで機能的なロボット・IoTツールを導入。製造プロセスの効率化に加え、原材料仕入れ先や製品納入先とのデータ連携によって取引先の工場の稼働状況や販売計画から先回りした対応が可能になった。系列外の企業との取引も生まれ、年間の繁閑の変動を抑えつつ、売上を増やすことができた。

サプライ
チェーンの
次世代化



地域経済 好循環システム の構築



観光地

地元有志が設立したまちづくり会社やDMO（観光地域づくりの舵取り役）が、地域の銀行やファンドから資金や経営支援を得て、景観を整備し、空き店舗や古民家等の地域資源を再生。観光客の行動をデータ分析して、街の活性化と個々の事業者の生産性向上を実現。国内外からの観光客で四季を通じて賑わっている。

専門家が
個々別々に
対応

新たな
事業展開の
模索

旅館経営者

売り上げ減に悩んでいた旅館経営者が、従業員に、社会人講座でデータを活用した最新の接客業を学び直してもらった。利用客の好みなどの情報を全て「見える化」したシステムを使いこなすことで、利用客のニーズに合った丁寧なサービスを提供し、顧客満足度と売上増を達成している。



小売

ITの専門性が特になくても身近な税理士等の勧めでクラウドサービスを導入（月額数千円～）。POSレジや受発注システムと連携して売上・仕入データが自動生成され、経理や確定申告が簡単に。データ分析とAIによって商品の入替えと価格の最適化を行い、更なる顧客価値の高い新サービスを開始。



行政手続 簡素化

役所対応に
右往左往

中小企業

ある省庁に提出した情報については、別の省庁から同じ情報を求められることがなくなり、行政側の縦割によって悩まされることなくなる。複数の補助金の申請を行う時でも、同一事項は一回記入すればよい。



人材力の 抜本強化

毎日の暮らしでは・・・

日本を楽しむ 旅行者は・・・

規制の
「サンドボックス」
の創設

家庭

地元のベンチャー企業が新たな通信方式を元に、暮らしを便利にするサービスを考案。家庭内の冷蔵庫や電子レンジなどに蓄積される日頃のレシピデータや食材の使用データを相互に参照し、好みに応じた新しいレシピの提案や、足りない食材を自動で近所のスーパーに注文してくれるもの。現行の規制は新しい通信方式を想定していなかったものの、サンドボックスによって、すぐに実証を開始。当局も一緒に実証データを確認。これによりスピーディにサービスイン。

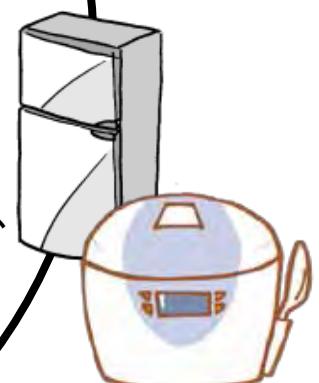
画期的アイデアが家庭に届かない

消費者

日常生活のふとした機会に、着たい服をスマホで入力。自分にぴったりの寸法、好みの色・素材の洋服が、既製品とさほど変わらない価格・手間で購入できるよう。



サプライ
チェーンの
次世代化



生活者

FinTech

アプリを使って、毎月の家計簿は自動作成。友人への送金もスマホでできた。サービス申込み時の本人確認もオンライン。アメリカ留学中の息子への仕送りはブロックチェーンにより大幅に安価に。買い物で現金は使わない。



2020年オリンピック・パラリンピックで東京を訪れた国内外の様々なニーズを有する旅行者が、交通運行情報や施設情報を組み合わせた高度なナビゲーションにより、複雑な東京駅構内でも迷わずに乗り継ぎ、公共交通機関で会場や宿泊場所へスムーズに移動している。

見知らぬ土地での右往左往

旅行者



データ
利活用

